

平成 26 年度産業廃棄物処理施設等視察会及び意見交換会を実施しました。

本部広報事業の産業廃棄物処理施設等視察会及び意見交換会を、本年も全 2 回実施しましたので、その内容をご紹介します。

第 1 回

- 実施日 平成 26 年 10 月 27 日 (月)
- 視察先 (株) J-オイルミルズ静岡工場 (静岡市)
静岡油化工業(株) (静岡市)
- 参加者 静岡県立大学 大学院 環境科学専攻生
静岡県立大学 大学院 環境科学専攻 担当教員
静岡県産業廃棄物協会役員 事務局 計 23 名

●参加者の感想 (アンケートより抜粋)

・食品工場としての気遣い (衛生管理) だけでなく、化学工場としての事故防止や周辺環境の配慮と、工場でものを作るには様々な制限や問題を越えて行かなければならないのだと思った。事故や故障を減らす為の工夫が、一人ひとりの発案と行動で成り立っているという点は、社会全般においても役立つことで勉強になった。

・工場内の高度な自動化、そして廃棄物の再資源化に取り組む姿勢に感動した。生産工程からの廃棄物削減、適正処理はもとより、配送パートナー企業による CO²削減といった環境配慮の実例などは、会社全体が精力を注ぎこんだ結果だと思った。

・丁寧な説明やもらったパンフレットで油の知識も広がった。信頼している会社を見学できて良かった。

(以上 (株) J-オイルミルズ静岡工場)

・担当者の発言「常に安定的に発生する食品廃棄物でなければビジネスとして成り立たない」この言葉通り年間を通して排出される廃棄物に着目して利益を生み出す努力に感心した。

・すごく上手く考えられたビジネスだと思った。特に興味を持ったコーヒー粕の再利用については、バイオペレット燃料や、PE と混合したパレットなど様々な利用法が考えられていることがよく分った。今後は気体燃料に動向に期待したい。

・本当の意味でのリサイクルを実行している会社だと思った。食品と環境の結びつきを考える上で参考になった。

(以上 静岡油化工業(株))



第 2 回

- 実施日 平成 27 年 2 月 13 日 (金)
- 視察先 株式会社太洋サービス (浜松市)
株式会社富士エコサイクル (浜松市)
- 参加者 静岡大学 人文社会科学部 法学科生 担当委員
静岡大学 人文社会科学部 経済学科生 担当教員
静岡県産業廃棄物協会役員 事務局 計 24 名

●参加者の感想 (アンケートより抜粋)

・産業廃棄物の処理がどのようにされているか普段見る事が出来ないのも、とても貴重な体験だった。一言で産業廃棄物といっても様々な分類があり、それぞれの処理に許可が必要であることが分かり、驚いた。ごみ処理施設は臭いがきつく大変そうなイメージがあったが思っていたほどでなく、様々な対策をとっているのだろうと思った。



・危険性のある物質も処理していると聞き、作業のほとんどが機械であっても専門知識は必要だと感じた。また、排出者と処理業者間での情報共有は不可欠だと思った。

・産業廃棄物に関わる法律と企業の関係について話を聞いて有意義だった。

・廃棄物処理に対して誠実に業務を行っている事業者だと思った。こういった事業者が率先して周辺住民と向き合えば、産廃に対する皆の考え方も変わってくるのではないかなと思う。
(以上 株式会社太洋サービス)

・家電を処分する際、店に渡して終わりでもその後どうなるのか知らなかったが、今回の見学で手作業での分解後、機械で粉々にしていることが分かった。機械を防音室に入れて騒音対策を行うなど周囲の環境に配慮している点に感心した。



・時代の変化につれて新しい法律に関わる企業ということで大変興味深かった。行政との関わり方が気になった。

・リサイクル率の高さに驚いた。また、工場もきれいでリサイクルのイメージが変わった。一方でまだ廃棄する素材が多くあることに、産廃のシステムが発展途上であることを感じた。

・家電リサイクル法の知識と現場がつながった気がした。とてもいい勉強になった。

(以上 株式会社富士エコサイクル)

・両社共社会的責任の高い業種であって各々が取り組む対策や問題意識をはっきりと感ることができた。

・リサイクルに関し、これまで以上に社会的責任を考えさせられ、これらを広める責務すら感じた。